



アシダンテラ

Acidanthera



学名：Gladiolus calliantus Marais. (=Acidanthera bicolor Hochst.)
 (グラディオルス カリアンツス/アキダンテラ ビコロール)
 科目：Iridaceae (アヤメ科グラジオラス属)
 原産地：エチオピア

花



ア
ア
シ
ダ
ン
テ
ラ

長い花筒部が弓なりに伸び、その先に花をつけるのがアシダンテラの特徴です。

一般に広く呼ばれているアシダンテラという名は、以前、30種ほどを含むアヤメ科のアキダンテラ属に与えられたものですが、現在はそのすべてがグラジオラス属に含まれています。エチオピア原産の球根植物で、花茎にまばらにつく花は、いずれも長く弓なりの花筒部をもち、うつむき加減に開花して、強い芳香を放ちます。

その代表格にあげられるアキダンテラ・ビコロールは、草丈約60cmで、葉は剣状。穂状花序に直径5~8cmの花を5~6個つけ、7~10cmと長い花筒部の先端で6枚の花被片が星形に開きます。中心部に入る暗褐色の斑紋がよく目立ち、花色はクリーム色がかった白です。

変種のアキダンテラ・ビコロール・ムリエリは、草丈約90cmと高く、花径も10cmほどになる大型種です。花色は白で、中心部の斑紋は紫褐色。午後から夕方にかけてとくに芳香が強くなるのが特徴です。

日本へ渡来したのは1935年（昭和10年）と

MEMO	栽培：難易度 ★★★☆☆	開花時期：9~10月
	生育温度：20~25℃	収穫時期：—
	手入れ：花から摘み	高さ：60~90cm
	土：7：3（赤玉土：腐葉土）	病気・害虫：根腐れ病

比較的新しく、水あげがよいことから主に切り花に利用されてきましたが、最近は夏の終わりを彩る花として、花壇にも植えられるようになりました。

栽培ポイント

👉 栽培

地植え、鉢植えとも可能ですが、半耐寒性で、また高温にも比較的弱く、やや育てにくい植物です。

球根の植えつけ適期は5~6月。地植えの場合は、日当たりと水はけがよい場所に、15~20cm株間をとり、3~5cmの深さに植えつけましょう。鉢植えの場合は、6号鉢に3球を目安にし、2cm程度覆土します。

なお、アヤメ科の植物は連作を嫌うので、1度も同科の植物を栽培したことのない場所に植えつけるのがベストですが、同じ場所で育てるときは、最低でも3年はあいだをあけましょう。

🌡️ 生育温度

適温は20~25℃。冬期に掘りあげた球根は、15℃以下にならない場所で保存します。

👉 手入れ

花後、花柄をつけたままにしておくと、株の生育が悪くなることがあります。早めに子房ごと花がら摘みをしましょう。

☀️ 日照

日向を好む植物ですが、7月~9月上旬はネットなどで遮光し、鉢植えの場合は半日陰に置くなど、直射日光を避けると花もちがよくなります。

アシダンテラは白い花卉の中心に暗褐色の斑が入ります。



💧 水やり

地植えの場合は、とくに水やりの必要はありません。鉢植えの場合は、5~9月は1~3日に1回を目安に、表土が乾いたらたっぷりと水やりをします。10~11月は3~5日に1回程度にし、乾燥ぎみに保って掘りあげる準備をしましょう。

▲ 土

とくに土質は選びませんが、水はけのよい肥沃な土がベストです。赤玉土7、腐葉土3の割合で混合したものがよいでしょう。

🍷 肥料

元肥として、5球に1握りを目安に油かすを施します。追肥の必要はありません。

🪴 植えかえ

越冬のために毎年球根を掘りあげ、植えかえます。12月ごろ、花後50日ほどして、地上部が黄変し枯れ始めたころが適期です。掘りあげた球根は、土をていねいに落とし、1週間ぐらい陰干ししてよく乾燥させ、その後は網袋などに入れて暖かい室内で保存し、翌年の5~6月に植えつけましょう。

殖やし方

分球で殖やします。植えかえで掘りあげた親球のまわりについている木子をていねいにはずし、翌年の5~6月に用土に植えつけ、その冬も掘りあげましょう。2年ほどすると、球根が十分に肥大して開花球になります。

作業	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
☀️ 日照						日向	半日陰	半日陰	半日陰	日向	日向		
💧 水やり							ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	少なめ		
🍷 肥料													
🪴 植えかえ													

🌿 病気対策と害虫防止 🌿

- 病虫害はほとんどありませんが、水はけの悪い場所に植えると根腐れ病にかかることがあります。発病すると根元が黒ずみ、やがては枯れてしまいます。薬剤は効果がないので、球根を掘りあげて処分しましょう。

購入アドバイス

球根は大きな園芸店にもほとんど出まわらないので、球根草花を取り扱う種苗会社の通信販売を利用するとよいでしょう。



切り花にも最適なアシダンテラ



アシダンテラの花には豊かな芳香があります。